

論壇

現役世代3割 高齢者1割

シングルマザーなどの立場で子育てをするのは、経済的には大変なことだと思う。限られた収入の中で教育費を捻出し、生活を維持している。母親が病気になったら大変だ。医療費は保険でカバーされていると言っても、医療費の3割は自己負担することになる。もちろん、医療費がある一定以上になれば、高額医療費ということでも本人負担はなくなるが、それまでの部分については3割の負担となる。

一方で高齢者の中には経済的に恵まれている人も決して少なくない。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

い。潤沢な預貯金を持っており、持ち家で、年金も給付されている。75歳以上のそうした方が病気になるれば、本人負担は1割でよい。後期高齢者医療制度が高齢者を守っているのだ。

これが現在の医療制度であるが、何か納得できない気持ちになるのは、私だけではないだろう。

のかどうかに関係なく、高齢者は一律に1割の自己負担でよい。人口の少子高齢化が進む中で高齢者の割合が増えているので、将来的には1割負担で済む人の割合が増えて、日本の医療費の財政負担はますます厳しいことになる。

そろそろ年齢によって一律に医療費負担に差をつけるのはやめた

年齢で決まる医療費自己負担

厳しい経済状況の中でも頑張って子育てをしているお母さんには3割の自己負担を求め、豊かな老後の生活を送っている人には1割の負担しか求めないというのだ。

日本の医療制度では、個人負担の重さは年齢によって決まっている。その人が経済的に余裕がある

方がよいのではないだろうか。高齢者でも豊かな人には現役世代と同じように負担してもらい、現役世代でも生活の厳しい人の医療費の自己負担比率を下げる。国民がみんなでお金を出し合って医療保険制度を維持し、困った人にそれを使ってもらおう。これが本来の社

会保険を利用した医療制度のあるべき姿のはずだ。

ちなみに、年齢層が高くなるほど、所得や資産の格差が広がる傾向がある。親からの遺産を別にすれば、若い人たちは皆、同じ条件から始まる。所得や資産に大きな格差はない。ただ、年を重ねるにつれて、人生で運が良かった人、努力した人、健康や家族に恵まれた人は、所得や資産が多くあり、そうでない人は所得や資産が少ない。年齢を重ねるほどそうした運不運の個人差が大きくなり、それが所得や資産のばらつきとなる。

貧困層に配慮する制度に

日本の医療制度を守るためには、高齢者であっても支払い能力

のある人には、それなりの医療費の個人負担をってもらうことが必要である。現役世代だけでは支えきれなくなるのは目に見えている。医療保険とは勤労者が高齢者の医療を守る制度ではなく、高齢者も含めた全ての国民が病気になった時に互助する制度であり、特に貧困層に配慮する制度でなくてはならない。

高齢化によって日本の医療制度は厳しい改革が必要な段階に来ている。改革をしなくてはいけないのは大変だと考えてしまいが、大きな改革を実現して日本の医療制度をもっとよくする絶好の機会だと考えればよいのだ。その手始めとして、年齢だけで機械的に負担と便益を決める今の制度は見直ししてほしいものだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。